

はじめに



多大な被害をもたらした東日本大震災から2年9か月が経ちました。この間、県では、環境分野の取組として、震災により大量に発生した災害廃棄物の処理、原子力発電所事故による放射性物質の環境モニタリング体制の整備などを実施してきました。

また、再生可能エネルギーの導入促進などの新たな課題に対し、庁内横断的な取組を進めているところです。

一方で、光化学オキシダント等の大気汚染、手賀沼・印旛沼・東京湾の水質汚濁、里山等の身近な自然環境の荒廃、廃棄物の不法投棄などの環境問題への対応や、大量生産・大量消費型の社会から「循環型社会」への転換、地球規模の気候変動への対応も引き続き重要な課題となっています。

これらの課題を解決し、本県の豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくため、平成20年3月に、環境政策のマスタープランである「千葉県環境基本計画」を策定するとともに、平成25年10月に策定した総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」では、重点施策の一つとして、「みんなで守り育てる環境づくり」を掲げ、身近な地域から地球規模に至るまで様々な環境問題に対する施策を積極的に展開することとしています。

このような状況を踏まえ、平成25年版環境白書では、「千葉県環境基本計画」に掲げた施策の実施状況や県の環境の現状に加え、最近のトピックスとして、東日本大震災を契機とした環境分野での取組、特定外来生物対策、PM2.5の監視状況と対策を取り上げ、その取組について記述しています。

こうした広範な環境問題へ対処していくためには、行政のみならず、何よりも県民の皆様とともにチームスピリットの精神を発揮して行動していくことが大切です。

本書を通じて県民の皆様が環境問題への理解や関心を深め、環境保全の取組を進める上での一助としていただければ幸いです。

平成25年12月

千葉県知事 森田健作